



Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 74 号

-
- ・発行日 / 2008 年 2 月 16 日
 - ・事務局 / 〒422-8053
静岡市駿河区西中原 2 - 7 - 63 - 1001
草野計雄方
 - ・発行所 / クリスチャンパートナーズ
 - ・Tel / Fax 054-283-9317
 - ・e-mail / cnec-kk@mail.wbs.ne.jp
 - ・http: // www2.wbs.ne.jp/~c-p/
 - ・郵便振替口座 / 00150 - 0 - 134994
-

『 足を洗う 』

(新約聖書ヨハネによる福音書第 13 章 1 節~20 節)

理事長 木ノ内一雄

主イエスは十字架に付けられる前、弟子たちと食事を共にし、彼らの足を洗われました。聖書では、「食事」はしばしば「霊的な交わり」を意味します。主イエスは天におられる時、父なる神と聖霊とご自身との間に完全な充足がありました。「この席」から主イエスは「立ち上がり」この世に来られました。「上着を脱ぐ」とは天で持っていた「神の栄光を捨て」て、わたしたちと同じ人となられたということです。「足を洗う」ことは当時の奴隷の仕事で、そのようにして「弟子たち」つまり「人々に」「仕えられた」ということです。人々はそのような主イエスを十字架につけて殺してしまいました。しかし、三日目に復活されました。主イエスは上着を着て再び食事の席に戻られたのです。主イエスはわたしたちに「永遠の命」があることを教え、ご自身が支配する「神の国」が既にこの世で始まっているのを教えられたのです。

クリスチャンパートナーズの目的は、発展途上国に住む子供たちの学費を援助し、できるだけ多くの子に教育の機会を与えることです。わたしたちはこのようにして人々に仕えることができたなら願っています。教育はこの世をより良く生きるための様々な機会をわたしたちに与えますが、その中でもキリスト教教育の大切さはいくらでもありません。主イエスを知り、その生き方を学ぶことにより、人に「仕えられる」ことから神と人との「仕える」人生に変えられるからです。主イエスを信じてはじめて教育の本来の目的が達成されるのではないのでしょうか。その助けをすることにわたしたちクリスチャンパートナーズの使命があると信じます。



インマヌエル中学校の奨学生たち

高橋めぐみ宣教師からの昨年 11 月 1 日付けのお手紙と、
その後に届いた奨学生たちの近況と写真を御紹介します。

クリスチャン パートナーズの皆様

主のみ名を賛美します。いつもお祈りと共に西カリマンタン宣教の働きをご支援くださりありがとうございます。全インドネシア 33 州のうち、後から数えて 3 番目とまだまだ遅れている西カリマンタン州の教育事情ですが、皆様の主にある愛によって多くの子どもたち、学生たちが勉強する機会を与えられています。彼らがインドネシアの将来の担い手であることを思い、皆様の働きの尊さを覚えます。今年度も下記の通り多くの支援献金をお送りくださり、ありがとうございました。

皆様のお働きの上に、続けて神様の豊かな祝福がございますように。

1. セイダウン小学校教師支援	3 名分	126,000 円	(3,500 円 x3 名 x12 ヶ月)
2. インマヌエル中学校奨学金	17 名	102,000 円	(500 円 x17 名 x12 ヶ月)
3. 大学生奨学金	5 名	60,000 円	(1,000 円 x5 名 x12 ヶ月)
4. ATI 神学生奨学金	5 名	378,000 円	(6,300 円 x5 名 x12 ヶ月)
合計		666,000 円	

2007 年 11 月 1 日 高橋めぐみ



メイティ・マレンデスさん卒業 (第61号4ページ参照)

神さまが私の人生に本当に良くして下さっていることを、心から感謝しています。高校卒業後、バンドン・ナショナル大学で日本語を学ぶことができました。日本のことが大好きなので、日本語を学びたいと思ったのです。日本語はとても難しい言語で、ユニークな言語でもあると思います。日本語を学ぶことができ、本当にうれしかったです。4 年間の最終学年では「格助詞の分析」というタイトルで論文を書きました。難しいテーマで、苦勞しながら取り組みました。

今は、バンドンの或るクリスチャンの団体で奉仕しています。私は子供が大好きなので、いつか日本の子供たちのために、それからアフリカの子供たちのために働くことができたらと祈っています。

クリスチャン パートナーズの皆様より、在学中にサポートしていただき、心から感謝します。皆様の尊いお働きが続けて祝福されますよう、お祈りいたします。メイティ・マレンデス

アグスティナさんの紹介

メイティさんに代わって昨年9月から支援しているアグスティナさんは、シンタンの近くのスンガイ・アヤックの出身で、ポンティアナック市のタンジュンプラ大学経済学部1年生で、ザイトン寮に入っています。

(2005年卒業のケジア・カルティカさんの、専攻は違いますが後輩になり、第72号で紹介したデヴィ・スサンティさんと同じ寮生です。)

『私は儒教を信仰している家庭に7人兄弟の4番目として生まれました。両親はいまだキリストを信じていません。7人のうち、現在3人が学校に行っていて、両親は学費を払うのが困難な状況にあります。クリスチャン パートナーズからのサポートを受けることができるようになって、感謝しています。』

